

平成24年度 第2回 地域教育力推進のためのモデル校プロジェクト会議 (MP)

実施内容

1 日時等 平成24年8月8日(木)
奈良県庁東館 教育委員室
13:30~16:30



2 参加者 地域教育力推進モデル校校長、関係教員
地域教育力推進モデル校関係市町教育委員会担当者

3 日程
13:30~ 開会

13:30~ 地域教育力推進のためのモデル校の取組の経過説明
(奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課)

13:40~ 地域教育力推進のためのモデル校の取組の中間報告
(奈良市立若草中学校、大和高田市立浮孔小学校、大和郡山市立郡山南小学校、香芝市立二上小学校、下市町立下市小学校)

14:20~ 講義
「地域コミュニティの再構成
～地域と共にある学校づくりを目指して」
文部科学省社会教育アドバイザー
青森中央学院大学 経営法学部
教授 高橋 興 氏

15:30~ 質疑応答

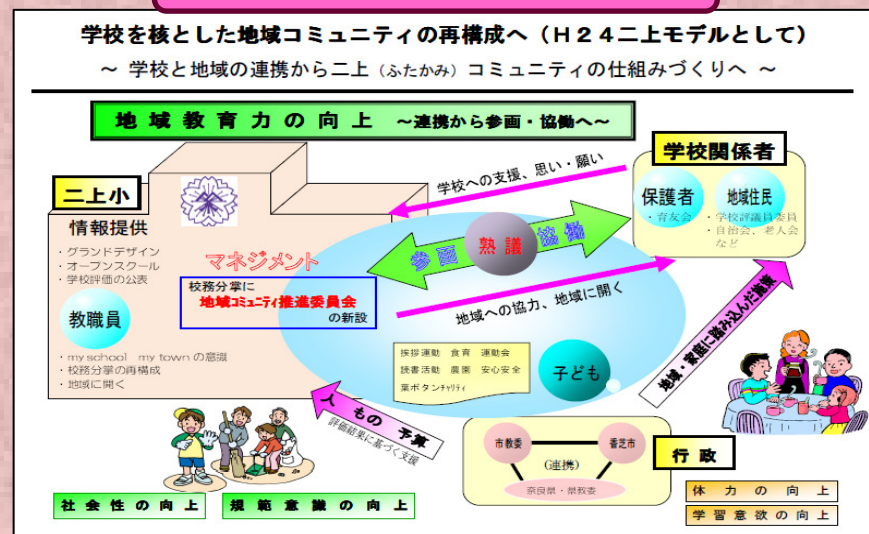
16:20~ 今後の進め方について
(奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課)

16:30~ 閉会

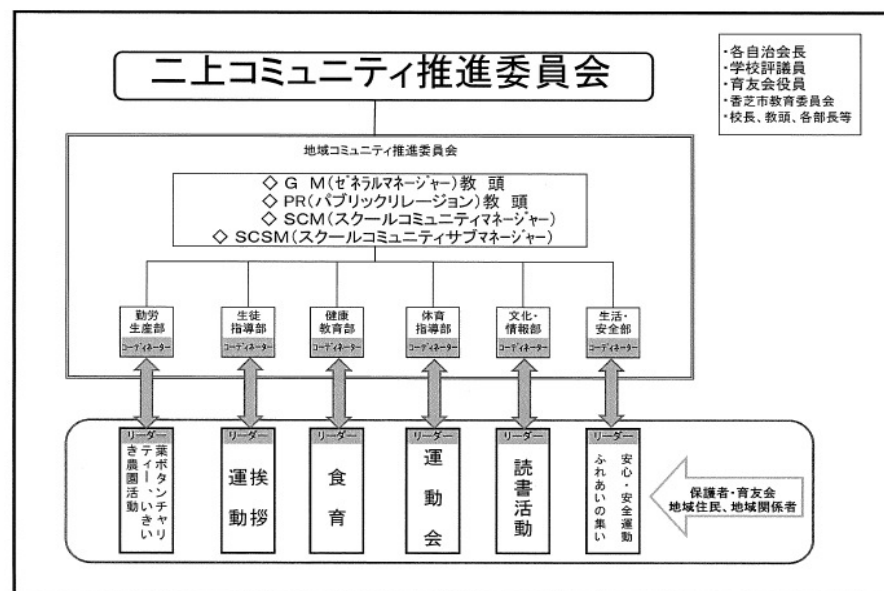
地域教育力推進モデル校の取組 (組織設置の状況)

校名	奈良市立 若草中学校	大和高田市立 浮孔小学校	大和郡山市立 郡山南小学校	香芝市立 二上小学校	下市町立 下市小学校
組織	特別活動部にコミュニティ部会を設置。若草中運営委員会を学校コミュニティ協議会として位置付ける。	地域コミュニティ推進委員会、うきあなネットワークを設置。うきあなネットワークに、安全、ふれあい、PTAの三つのコミュニティを構成。	校務分掌にある企画運営委員会をコミュニティ部に発展させる。PTA、自治会等の方との熟議の場を設ける。	二上コミュニティ推進委員会、地域コミュニティ推進委員会を設置。保護者、地域代表者等による食育グループなど七つのグループを構成。	地域協働コミュニティ部、地域コミュニティ(文化研修、生徒指導、特別活動、保健体育、食育)を設置。

二上小学校の例

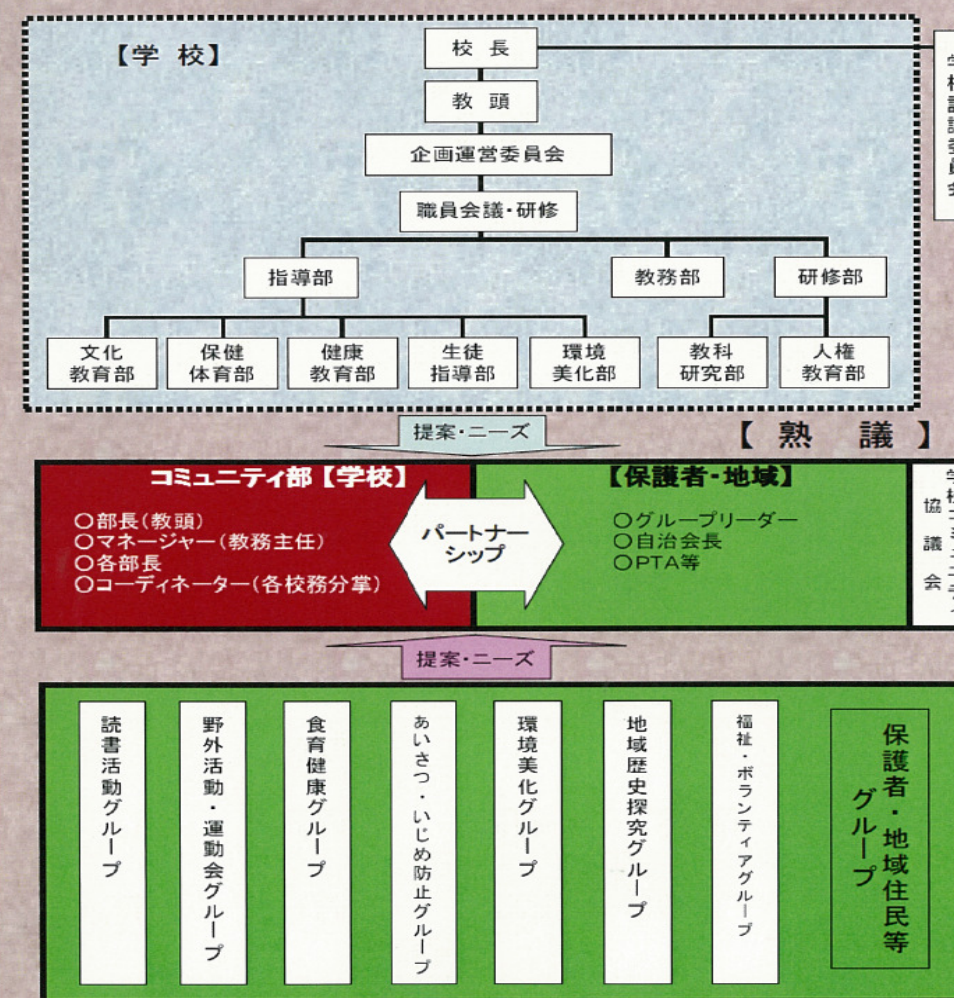


二上(ふたかみ)コミュニティ



地域教育力の向上を図る「新たな取組」 ～奈良モデル～

学校コミュニティの具体例



地域教育力推進モデル校の取組の進捗状況

奈良市立
若草中学校

○若草中運営委員会を開催

・会議時の部活動の支援や放課後の学習支援について熟議を行った。

○部活動支援・巡回を実施

・若草中運営委員会での熟議を受けて、職員会議の日の部活動巡回ボランティア（保護者）を募集し、二学期より実施する予定。また、3年生の学習支援ボランティアの募集を行い、12月から実施する予定。



若草中運営委員会での熟議
(若草中学校)

大和高田市立
浮孔小学校

○地域色のある運動会を実施

・保健体育部とPTA、婦人会が協働して、運動会で、地域のおどり「おかげおどり」を実施した。

○第1回「うきあなネットワーク」を開催

・学校、地域・保護者代表が集い、第1回「うきあなネットワーク」を開催。防災教育や地域の伝統行事に親しむ取組を進めるなどの提案を受け各部において熟議を行う。



地域の方とおかげおどり
(浮孔小学校)

大和郡山市立
郡山南小学校

○「子どもがまもる我が町 城下町」の取組の実施

・PTAからの提案を受け、「子どもがまもる我が町 城下町」の取組をスタート。校門の前の外堀の清掃活動を実施するため、市の都市計画課へ相談するとともに、PTA役員と教員による熟議を行った。今後、地域の自治会とも協働した取組に発展させて行く予定。



第1回目の熟議
(郡山南小学校)

香芝市立
二上小学校

○二上コミュニティが始動

・学校、地域・保護者代表が集い、二上コミュニティ推進委員会を開催。その後、各部会で、活動内容について検討。地域コミュニティ推進委員会で報告された。

○堆肥づくりを計画

・勤労生産部では、部会での熟議を経て、いきいき農園活動の取組として、子どもたちと地域の方が協働して、堆肥づくりを実施する。



いきいき農園の堆肥づくり
(二上小学校)

下市町立
下市小学校

○校区区長等「教育懇談会」を実施

・校区内区長、PTA役員等が集い、「教育懇談会」を開催。新たな取組について協議を行った。

○「地域花いっぱい運動」を実施

・校区公共施設や要所に、子どもたちの似顔絵とメッセージ入りのプランターを設置。地域方と協働で花を育てる取組をスタートした。



地域花いっぱい運動
(下市小学校)

文部科学省社会教育アドバイザー

青森中央学院大学経営法学部 教授 高橋 興 氏 講義

プロフィール

〈職 名〉青森中央学院大学 経営法学部 教授
文部科学省社会教育アドバイザー

〈略 歴〉・青森県立高校2校で校長
・青森県教育庁生涯学習課長、参事、青森県総合社会教育センター所長等を経て現職
・文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会委員等

〈専門分野〉・社会教育施設、地域ネットワーク、学校・地域連携事業等



講義の概要

講義テーマ

「地域コミュニティの再構成 ~地域と共にある学校づくりを目指して~」

概要

1. 「地域と共にある学校」の実現は、後退できない大きな流れである

- 「開かれた学校」づくりから、「学校評議員」制度、「学校運営協議会」制度、学校評価、「学校支援地域本部」事業、「新しい公共」型の学校づくりに至る、保護者や地域住民、企業、NPOなどの意見や力を学校教育に積極的に取り入れる、連携・協働するという考え、取組は、20年近い一貫した流れである。
- その背景にあるのは、学校及び教員が果たし得る役割の限界があり、これからは、学校と保護者や地域住民等々との相互理解、地域教育力推進のための取組が必要である。

2. 「地域と共にある学校」を目指す取組の担い手たる教職員と市町村教育委員会が取り組むべき主要な課題

〈学 校〉

- 教職員の発想転換を図ることが、すべての出発点である。
 - ・教職員の「抱え込み体質」からの脱却
 - ・学校の方針や計画で、「地域と共にある学校づくり」の視点を明確化
- 校内の体制整備に努めることが大切である。
 - ・「地域と共にある学校づくり」のための担当・窓口を明確化し、校務分掌に位置付け、広報する
 - ・コーディネーターやボランティアの居場所の確保
 - ・PTAとの関係を大切にする
- 学校側が求めるものを明確に伝える努力が大切である。
 - ・地域住民が「学校文化」を理解するのは困難であり、教職員のコーディネーターが、地域住民とのパイプ役になる

- 既存の「人材バンク」を機能させる。
- 町内会等の地域住民組織との関係づくりを大切にする。

〈市町村教育委員会〉

- 学校、コーディネーター、ボランティアの活動条件整備に全力を尽くす。
 - ・特に、教職員の理解と協力が得られるための取組、学校が望むボランティアの確保に努める必要がある
- 学校とコーディネーター、公民館や図書館等社会教育施設との連携を支援する。
- 学校とコーディネーター、町内会等の地域住民組織や体協・文化協会等の各種団体等とのネットワークづくりを支援する。
- 学区や町村を越えたネットワークづくりを支援する。

3. 今後、考え実践すべきことは何か

- 「地域と共にある学校づくり」は、学校のためだけではない。
 - 〈「地域と共にある学校づくり」が進むと〉
 - ・地域社会の学校や教員に対する理解が深化し、教員のストレスが減少し、学校の教育効果のさらなる向上が図れる
 - ・保護者が、我が子を客観的に視ることができるようになる（親としての役割や家庭教育の見直しなど）
 - ・地域や学校に対する人々の意識が変化する
 - ・学校をベースとした「新たなコミュニティ形成」のきっかけとなる
- 学校は、地域住民が様々な想いや関心をもつ対象である。
 - ・「子どものため」「学校の役に立つ」の想いから、共通理解が得やすい
 - ・学校での活動が、地域における様々な活動の「きっかけ」となる
- 熟議のすすめ。（熟議とは、一緒に何かをするための対話である）
 - 〈熟議のポイント〉
 - ① 目指す課題ため、多くの関係者を集める
 - ② 人数は最大6~7人で、お互いに言いたいことを言い合う
 - ③ 議論する中で、お互いの立場を理解し、担うべき役割を認識する
 - ④ 具体的な取組（対策）を練り、今後、取り組んでいくのか確認する
- 「いい地域（コミュニティ）には、いい学校がある。いい学校は、いい地域（コミュニティ）をつくる」ことを再確認する。
- 教職員は、常に「地域と共にある学校づくり」の取組との関連を意識した教育活動を行うことが大切である。
 - ・決して、簡単に成果があがるものではなく、継続こそが大切